

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 12 日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏 名	大勝裕史
研究課題	ハリウッド映画研究：戦争の表象を中心に				
研究キーワード	戦争映画、西部劇		当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	16. 平和と公正をすべての人に	5. ジェンダー平等を実現しよう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

6 月末に共著の本が出版された。同じ 6 月末に日本映画学会例会で西部劇に関する発表をした。
教育分野では、科研費（21K00767、研究代表酒井志延）の助成を受けて、7 月にフランスで、8 月に韓国で機械翻訳と英語学習に関する学会発表をした。また 3 月にも映画を使った共同学習に関する発表をした。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

（著書、共著）2023 年 6 月 28 日、「第 3 章 第二次世界大戦戦闘映画『特攻大作戦』と西部劇『ワイルド・アパッチ』——ヴェトナム戦争中のロバート・アルドリッチ」『映画史の論点：映画の〈内〉と〈外〉をめぐって』（杉野健太郎編、ミネルヴァ出版）。

（論文、共著）2023 年 7 月 30 日、酒井志延、大勝裕史、土屋佳雅里、「機械翻訳が進化した時代の外国語教師のリスキリングについての研究」『千葉商大紀要』61(1)、1-17 頁。

（研究ノート、共著）2023 年 7 月 30 日、山内真理、大勝裕史、村上眞紀、「ゆるやかなオンライン協働ティーチングの試み」『千葉商大紀要』61(1)、137-149 頁。

【学会発表等】

（学会発表、単独）2023 年 6 月 24 日、「私はなぜ戦うか——ノワール西部劇としての『真昼の決闘』」日本映画学会例会ワークショップ、於東京工業大学（東京）。

（学会発表、共同）2023 年 7 月 19 日、酒井志延、サミュエル・ギルダート、大勝裕史と共同発表、“Machine Translation Is Changing English Education in Japan,” AILA World Conference 2023, at Ecole Normale Supérieure de Lyon（リヨン、フランス）。

（学会発表、共同）2023 年 8 月 18 日、酒井志延、土屋佳雅里、大勝裕史、“A Discussion on the Paradigm Shift in English Language Teaching Brought About by Machine Translation,” Asia TEFL 2023 Conference, at Daejeon Convention Center（大田、韓国）。

（学会発表、単独）2024 年 3 月 10 日、「Activity, Reactivity, and Responsibility: 映画を使った共同学習」

3. 主な経費

研究費の大半は DVD と研究書の購入によるものである。まだ業績として結果が出ていないが（未出版）、映画史に関する本（共著）の担当部分を執筆する際に、多数の DVD を購入する必要があった。またハードウェア

の支出として、研究の効率を上げるためにスキャナーを購入した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

・基盤研究（C）：2021-23 年、分担（研究代表：酒井志延）、「機械翻訳を使いリメディアル教育を必要とする学習者の学習支援のための総合的研究」（21K00767）

（本文は2ページ以内にまとめること）